



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

スタートアップ版

脱炭素アクションみぞのくち

～環境配慮型ライフスタイルの実践～



みぞのくちに何があるんだろう??
詳しくはリーフレットの中へ!!



脱炭素モデル地区 ～脱炭素アクションみぞのくち～

掲載情報は令和2年10月末時点のものです。

再生可能エネルギー100%への転換

脱炭素モデル地区では、公共施設や商業施設で使用電力を100%再生可能エネルギーに転換するチャレンジや、家庭でオトクに再生可能エネルギー由来の電力を購入できるキャンペーンを実施します。

- ① 高津区役所の省エネと再生可能エネルギー100%への取組
照明のLED化により消費電力が全体の15%削減されるとともに、電力の再生可能エネルギー100%への切替や公用車の電動化を目指します。
- ② 商業施設における再生可能エネルギー100%への取組
マルイファミリー溝口では、使用電力の再生可能エネルギー100%を達成し、さらにノクティプラザ全体での再生可能エネルギー100%調達を目指します。
- ③ みんなでいっしょに自然の電気
近隣の都県市と連携し、環境にやさしい再生可能エネルギー由来の電気を家庭でオトクに購入できる取組を実施しています。



小学校への出前授業

プラスチック資源循環の取組

川崎市では、プラスチック資源循環への対応方針を策定し、プラスチックごみの課題に総合的かつ迅速に取り組んでいきます。脱炭素モデル地区では、公共施設等への給水スポットの導入実証や環境学習など、事業者と連携して取組を集中的に展開していきます。

- ④ 低炭素型廃プラスチックリサイクルシステムの実証
廃プラスチックの製品化に向けた実証実験において、脱炭素モデル地区内の店舗からも利用可能なプラスチック袋等の回収を行っています。

ごみ焼却時の熱を利用した廃棄物発電

- ⑤ 令和5年度に竣工予定の橋処理センターでは、ごみを燃やした時の熱を利用して最大14,000kWのCO2排出係数ゼロの電気を発電し、場内で使用するほか、一般家庭13,000世帯相当分の電力をまかなうことができます。

電気自動車や燃料電池自動車の普及に向けた取組

走行時にCO2が発生しない電気自動車や燃料電池自動車など、環境にやさしい電動車に注目が集まっています。

- ⑥ 水素ステーションの新設
来春、燃料電池自動車（水素を燃料として走行する自動車）に水素を供給する「水素ステーション」（市内3か所目）が川崎市以外ではじめて高津区梶ヶ谷に開設予定です。
- ⑦ 電気自動車の普及
民間事業者と連携して、電気自動車用の急速充電器の実証等を実施し、電気自動車のさらなる普及に取り組めます。

これからのまちづくり、行動変容に向けた取組

- ⑧ 産学公民が連携し、CO2削減、資源循環、自然共生など暮らしやすいまちづくりのための共同研究を実施します。また、若年層向けの意見交換会や行動変容につながる新たな参加型の取組も実施します。

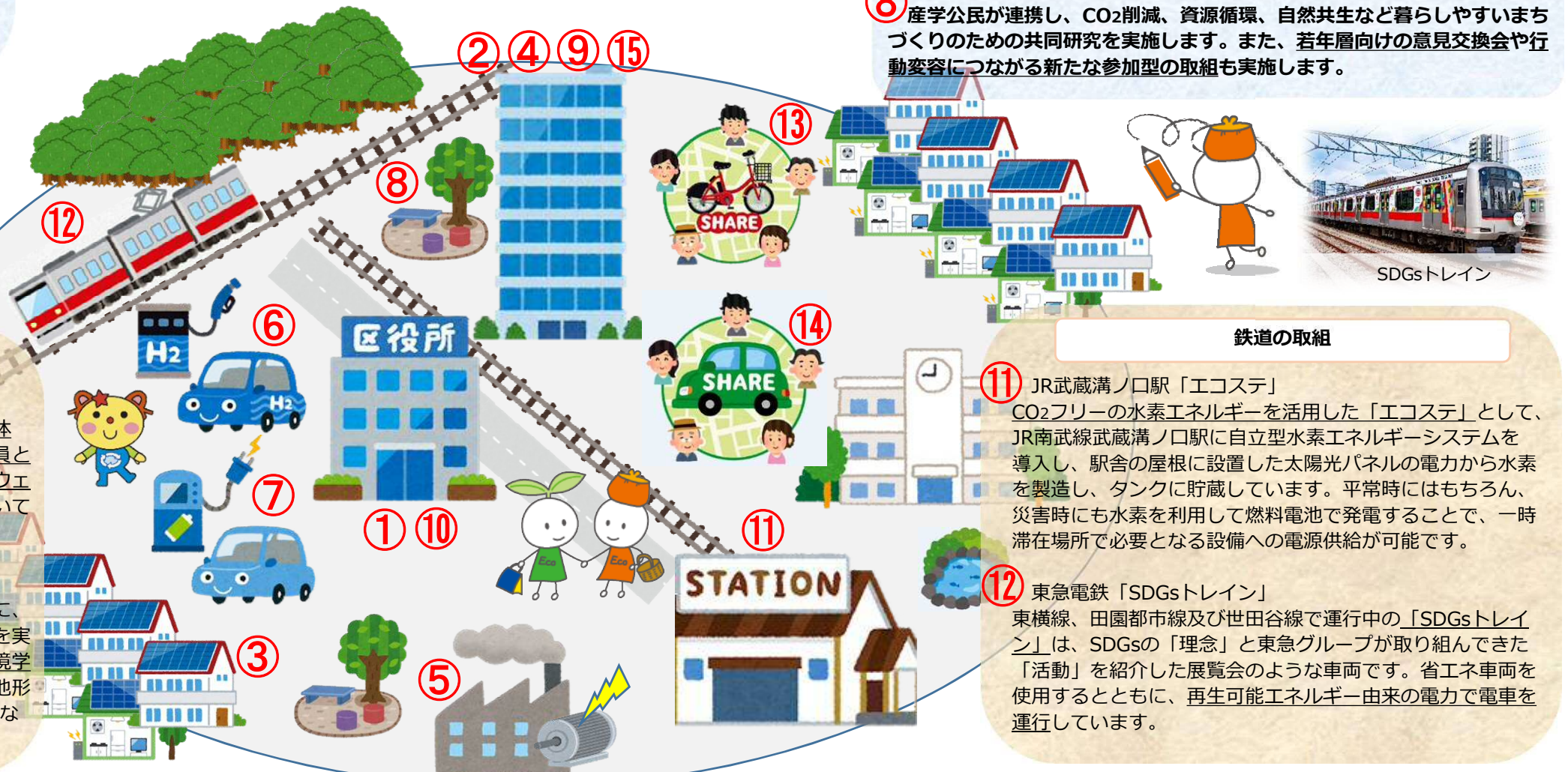
行政や市民活動団体の連携した取組

- ⑨ 川崎市地球温暖化防止活動推進センター
地球温暖化防止活動の中間支援拠点として、地域の様々な活動団体（市民活動団体、事業者等）及び川崎市地球温暖化防止活動推進員と連携し、普及啓発イベントやセミナー、小学校等への出前授業、ウェブを活用した情報発信等を通して、地球温暖化対策の重要性について啓発活動及び広報活動を行っています。
- ⑩ エコシティたかつ
地球温暖化に対する緩和策と適応策、生物多様性の保全などを柱に、市民活動団体、事業者等と連携しながら環境保全活動や体験学習を実施しています。高津区内の小中学校等でのビオトープを活用した環境学習支援、緑ヶ丘霊園内での自然の賑わいづくり、流域での自然の地形（大地のデコボコ）を考える小学校敷地丸ごと3D化プロジェクトなどを実践中です。

シェアリング・エコノミー

シェアリング・エコノミー（不特定多数の提供者がモノ・サービスを提供し、利用者がそれを利用できるサービス）は、消費者にとって経済活動の新たな選択肢として消費生活を豊かにするとともに、モノや空間等の資源の効率的な活用による天然資源投入量や廃棄物発生量の削減、移動手段や空間の共有等によるCO2排出量の削減といった環境面の効果も期待できます。

- ⑬ シェアサイクル
自転車はCO2排出ゼロのエコな移動スタイルです。シェアサイクルを活用すれば、複数のサイクルポート間で気軽に自転車を利用することができます。
- ⑭ カーシェアリング
1台の自動車を複数の会員が共同で利用する新しい利用形態です。車を必要な時だけ使うようになると、1世帯当たりの年間総走行距離が減少し、CO2排出削減に貢献できます。
- ⑮ 傘のシェアリング
突然の雨でも安心！シェアサービススポットで傘をシェアすることで、ビニール傘の使い捨てを減らすことができます。

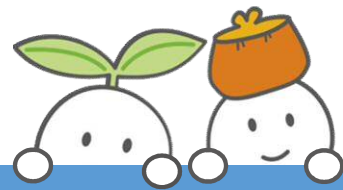


鉄道の取組

- ⑪ JR武蔵溝ノ口駅「エコステ」
CO2フリーの水素エネルギーを活用した「エコステ」として、JR南武線武蔵溝ノ口駅に自立型水素エネルギーシステムを導入し、駅舎の屋根に設置した太陽光パネルの電力から水素を製造し、タンクに貯蔵しています。平常時にはもちろん、災害時にも水素を利用して燃料電池で発電することで、一時滞在場所で必要となる設備への電源供給が可能です。
- ⑫ 東急電鉄「SDGsトレイン」
東横線、田園都市線及び世田谷線で運行中の「SDGsトレイン」は、SDGsの「理念」と東急グループが取り組んできた「活動」を紹介した展示会のような車両です。省エネ車両を使用するとともに、再生可能エネルギー由来の電力で電車を運行しています。



『脱炭素アクションみぞのくち』とは



脱炭素社会の実現に向けて

「脱炭素」とは、地球温暖化の原因である二酸化炭素（CO₂）の排出量を可能な限り減らし、排出されたCO₂を吸収・削減することにより、**実質的にCO₂の排出量をゼロにすること**をいいます。現在のペースで地球温暖化が進むと、21世紀後半の日本において、暑熱による死亡や熱中症のリスクの上昇、洪水や土砂災害の増加など、これまで経験したことのないような様々な影響が出てきます。川崎市は、2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2020年2月に**2050年のCO₂排出実質ゼロを表明**するとともに、同年11月に**脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」**を策定し、2030年に向けた取組の一つとして、**脱炭素モデル地区を創設**しました。将来世代が安心して暮らせる環境を引き継ぐために、脱炭素社会の実現に向かって市民・事業者・行政が一丸となって取り組むことが重要です。

『脱炭素アクションみぞのくち』について

脱炭素モデル地区『**脱炭素アクションみぞのくち**』では、脱炭素化に資する身近な取組や先進的な取組を集中的に実施し、取組の効果や利便性を実感してもらうことで、**市民一人ひとりの環境配慮型のライフスタイルへの行動変容を促進**し、脱炭素社会の実現を目指します。また、この取組を進めるにあたっては、脱炭素社会を実現するためのポテンシャルがある地域として、高津区溝口周辺地域を設定しています。

今後の展開について

『脱炭素アクションみぞのくち』では、今後、脱炭素化に向けて取り組む事業者等の募集を予定しており、様々な活動主体と協働してモデル事業やイベントなどのアクションを展開していきます。今後の展開や様々な取組は、川崎市HPなどでお知らせしていきます。

URL: <https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000122317.html>



令和2（2020）年11月発行

お問合せ先：川崎市環境局地球環境推進室

電話：044-200-3871 / Email：30tisui@city.kawasaki.jp

